

建築学科の教育目標と カリキュラムの編成方針

1. 建築学科の教育目標

建築学は、人間が生活して様々な活動を行うための「たてももの・まち」を、社会のニーズに応えるように創造し、デザインする学問です。したがって、単に工学の分野にとどまらず、「共通科目」に含まれている人文科学、社会科学、自然科学などの幅広い分野の学問と強いつながりを持つ一方で、芸術的な側面をも含んでいます。

建築学科の教育目標は、以下に示す素養（技術などの下地）を持つ建築家、建築技術者、プランナー、デザイナーなど、建築のプロフェッショナルを育てることにあります。

(1) しっかりとした基礎力

カリキュラムの前半で、プロフェッショナルとしての基礎を築くため、幅広い知識を吸収し、審美的な感性を磨き、基本的技術をマスターします。

(2) 社会で通用する応用力と実践力

カリキュラムの後半では、知識や技術のレベルを高めるとともに、最新情報を吸収しながら、多様な状況に適切に対応して、課題を解決する応用力を養います。

さらに、建築に関する様々な資格の取得を念頭に、社会で活躍するための実践的な力を養います。

(3) 豊かな人間力

全体を通して、技術者としての倫理を持ち、他者との対話を適切に行い、その使命を果たすことができる幅広い教養と高い品格が備わるように努めます。

建築を学ぼうとする諸君は、建築学の特質をよく認識して、工学的な分野から芸術的な分野にいたる「専門科目」を学ぶことが必要です。そして、建築の専門性を支える強固な土台をつくるために、「共通科目」を幅広く学ぶことも大切です。

2. カリキュラムの編成方針と科目履修上の留意点

建築士になるためには、国家試験に合格しなければなりません。試験は、計画、環境・設備、法規、構造、施工の5つの分野から出題されます。そのため、多岐にわたる専門分野の幅広い知識をできるだけ体系的に、かつ効果的に学習できるように、建築学科では特色ある教育カリキュラムを用意しています。このカリキュラムからどのように学ぶのかは、基本的に諸君の自主性に委ねられています。履修計画は、諸君一人ひとりが、用意されている授業科目から自由に選び、自由に立ててよいのです。

とはいえ、自分の好みや都合で選んだのでは、体系的な知識や技術を身につけることはできません。そのような履修の計画を立てるには、このカリキュラムがどのような意図をもって編成されているのかを理解する必要があるでしょう。カリキュラムの編成方針と、科目履修にあたっての留意事項を以下にまとめておきます。

○2014年度、2015年度入学生

(1) 専門科目のカリキュラムは、基幹、建築設計・計画、建築環境工学・設備、構造力学・建築一般構造、建築材料・生産、専門共通の6つの専門科目群から構成されています。

(2) 全体の教育カリキュラムの構成と流れはカリキュラム・マップに示されています。

1年次には基幹分野である「静定構造力学演習」、「材料力学演習」、「設計基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、専門共通分野の「建築概論」などの建築学の入門的な内容を学ぶ科目と、構造力学・建築一般構造分野の「建築構造Ⅰ」が用意されています。

2年次からは、建築設計・計画、建築環境工学・設備、建築材料・生産の専門科目群が新たに加わります。これは、建築の学問的な区分に従って、大まかに科目をまとめたものです。これらの科目は建築学の基礎を与えるものであり、また、建築士の受験の際に必須の知識を与えるもので、大半を選択必修科目としています。

- (3) 3～4年次には、より専門性の高い科目が用意されています。諸君はこの段階で自分の学問的興味や将来の進路を十分考慮し、履修計画を立ててください。3年後期の「建築演習Ⅰ」では、意匠計画・環境コース（計画・環境系）と構造計画コース（構造・生産系）の2コースを設けていますが、諸君はいずれかのコースを選ばなければなりません。このときに選んだコースが、そのまま「建築演習Ⅱ」でのコースになり、卒業研究は当該系の科目担当の教員の下で指導を受けることとなります。

なお、3年次配当の必修科目を履修するためには、1・2年次に開講される必修科目を全て修得することが必要です。

- (4) 4年次になると、諸君は卒業研究に取り組むこととなります。卒業研究は、各専門分野の指導教員の指導を受けながら各自がテーマを決め、プロジェクト製作や調査、実験などによって、その分野の基礎的あるいは応用的能力の充実に努めるものとするものです。これまで諸君が学習してきた知識や技術の集大成を行います。

卒業研究に着手するには、

- ・100単位以上を修得していること
- ・3年次までに配当の必修科目15単位を修得していること
- ・次の選択必修科目の要件をすべて充足していること
 - 1) 「建築設計・計画分野」で12単位以上（ただし、「建築法規Ⅰ」または「建築法規Ⅱ」のいずれかを含む）
 - 2) 「建築環境工学・設備分野」で6単位以上（ただし、「建築設備Ⅰ」または「建築設備Ⅱ」のいずれかを含む）
 - 3) 「構造力学・建築一般構造分野」で8単位以上
 - 4) 「建築材料・生産分野」で4単位以上（ただし、「建築材料Ⅰ演習」または「建築材料Ⅱ」のいずれかを含む、「建築経済」または「建築施工」のいずれかを含む）

のすべての条件を満足しなければなりません。ただし、これらは最低限の条件で、総単位数として120単位程度の修得が望まれます。

4年次配当の科目は、より高度な内容を少人数で学べる内容となっています。従って、これらの科目も意欲的に学んでください。

○2016年度以降入学生

- (1) 専門科目のカリキュラムは、基幹、建築設計・計画、建築環境工学・設備、構造力学・建築一般構造、建築材料・生産、専門共通の6つの専門科目群から構成されています。
- (2) 全体の教育カリキュラムの構成と流れはカリキュラム・マップに示されています。

1年次には基幹分野である「静定構造力学演習」、「材料力学演習」、「設計基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、専門共通分野の「建築概論」などの建築学の入門的な内容を学ぶ科目と、構造力学・建築一般構造分野の「建築構造Ⅰ」が用意されています。2年次からは、建築設計・計画、建築環境工学・設備、建築材料・生産の専門科目群が新たに加わります。これは、建築の学問的な区分に従って、大まかに科目

をまとめたものです。これらの科目は建築学の基礎を与えるものであり、また、建築士の受験の際に必須の知識を与えるもので、大半を選択必修科目としています。

- (3) 3～4年次には、より専門性の高い科目が用意されています。諸君はこの段階で自分の学問的興味や将来の進路を十分考慮し、履修計画を立ててください。3年後期の「建築演習Ⅰ」では、意匠計画・環境コース（計画・環境系）と構造計画コース（構造・生産系）の2コースを設けていますが、諸君はいずれかのコースを選ばなければなりません。このときに選んだコースが、そのまま「建築演習Ⅱ」でのコースになり、卒業研究は当該系の科目担当の教員の下で指導を受けることになります。

なお、3年次配当の必修科目を履修するためには、1・2年次に開講される必修科目を全て修得することが必要です。

- (4) 4年次になると、諸君は卒業研究に取り組むことになります。卒業研究は、各専門分野の指導教員の指導を受けながら各自がテーマを決め、プロジェクト製作や調査、実験などによって、その分野の基礎的あるいは応用的能力の充実を図ろうとするものです。これまで諸君が学習してきた知識や技術の集大成を行います。

卒業研究に着手するには、

- ・100単位以上を修得していること
- ・3年次までに配当の必修科目15単位を修得していること
- ・次の選択必修科目の要件をすべて充足していること
 - 1) 「建築設計・計画分野」で12単位以上（ただし、「建築法規Ⅰ」または「建築法規Ⅱ」のいずれかを含む）
 - 2) 「建築環境工学・設備分野」で「建築環境工学Ⅰ演習」、「建築環境工学Ⅱ演習」、「建築環境工学Ⅲ演習」3科目のうち2科目4単位および「建築設備Ⅰ」または「建築設備Ⅱ」のいずれかを修得していること
 - 3) 「構造力学・建築一般構造分野」で8単位以上
 - 4) 「建築材料・生産分野」で4単位以上（ただし、「建築材料Ⅰ演習」または「建築材料Ⅱ」のいずれかを含む、「建築経済」または「建築施工」のいずれかを含む）

のすべての条件を満足しなければなりません。ただし、これらは最低限の条件で、総単位数として120単位程度の修得が望まれます。

4年次配当の科目は、より高度な内容を少人数で学べる内容となっています。従ってこれらの科目も意欲的に学んでください。

○2018年度以降入学生

- (1) 専門科目のカリキュラムは、基幹、建築設計・計画、建築環境工学・設備、構造力学・建築一般構造、建築材料・生産、専門共通の6つの専門科目群から構成されています。
- (2) 全体の教育カリキュラムの構成と流れはカリキュラム・マップに示されています。1年次には基幹分野である「静定構造力学演習」、「材料力学演習」、専門共通分野の「建築概論」、「建築構法」、「設計基礎演習Ⅰ・Ⅱ」の建築学の入門的な内容を学ぶ科目が用意されています。2年次からは、建築設計・計画、建築環境工学・設備、構造力学・建築一般構造、建築材料・生産の専門科目群が新たに加わります。これは、建築の学問的な区分に従って、大まかに科目をまとめたものです。これらの科目は建築学の基礎を与えるものであり、建築士の受験の際に必須の知識を与えるもので、大半を選択必修科目としています。
- (3) 3～4年次には、より専門性の高い科目が用意されています。諸君はこの段階で自分の学問的興味や将来の進路を十分考慮し、履修計画を立ててください。3年後

期の「建築演習Ⅰ」では、意匠計画・環境コース（計画・環境系）と構造計画コース（構造・生産系）の2コースを設けていますが、諸君はいずれかのコースを選ばなければなりません。このときに選んだコースが、そのまま「建築演習Ⅱ」でのコースになり、卒業研究は当該系の科目担当の教員の下で指導を受けることになります。

なお、3年次配当の必修科目を履修するためには、1・2年次に開講される必修科目を全て修得し、かつ、共通分野の選択必修科目要件を満足することが必要です。

- (4) 4年次になると、諸君は卒業研究に取り組むことになります。卒業研究は、各専門分野の指導教員の指導を受けながら各自がテーマを決め、プロジェクト製作や調査、実験などによって、その分野の基礎的あるいは応用的能力の充実を図ろうとするものです。これまで諸君が学習してきた知識や技術の集大成を行います。また、大学院進学、あるいは、生涯にわたって建築学を深く学ぶためのキャリア形成支援講座として、「建築学アドバンスⅠ・Ⅱ」が用意されています。

卒業研究に着手するには、

- ・110単位以上を修得していること
- ・3年次までに配当の必修科目15単位を修得していること
- ・次の選択必修科目の要件をすべて充足していること
 - 1) 「専門共通分野」で6単位以上を修得していること（ただし、「設計基礎演習Ⅰ」または「設計基礎演習Ⅱ」のいずれかを含む）
 - 2) 「建築設計・計画分野」で10単位以上を修得していること
 - 3) 「建築環境工学・設備分野」の「建築環境工学Ⅰ演習」、「建築環境工学Ⅱ演習」、「建築環境工学Ⅲ演習」の3科目のうち4単位以上を修得していること
 - 4) 「構造力学・建築一般構造分野」で8単位以上を修得していること
 - 5) 「建築材料・生産分野」で4単位以上を修得していること（ただし、「建築材料Ⅰ」または「建築材料Ⅱ」のいずれかを含む、および、「建築施工」、「建築経済Ⅰ」、「建築経済Ⅱ」の3科目のうち2単位以上を含む）
 - 6) 3年次後期に配当される以下の選択必修科目のうち6単位以上を修得していること
「建築計画Ⅳ」「建築計画Ⅴ」「建築史Ⅲ」「建築史Ⅳ」「地区設計論」「地区計画論」「建築設備ⅡA」「建築設備ⅡB」「鉄筋コンクリート構造Ⅱ」「鉄筋コンクリート構造Ⅲ」「建築基礎構造Ⅰ」「建築基礎構造Ⅱ」「建築経済Ⅰ」「建築経済Ⅱ」

のすべての条件を満足しなければなりません。ただし、これらは最低限の条件で、総単位数として120単位程度の修得が望まれます。

4年次配当の科目は、より高度な内容を少人数で学べる内容となっています。従ってこれらの科目も意欲的に学んでください。

○2022年度入学生

- (1) 専門科目のカリキュラムは、基幹、建築設計・計画、建築環境工学・設備、構造力学・建築一般構造、建築材料・生産、専門共通の6つの専門科目群から構成されています。
- (2) 全体の教育カリキュラムの構成と流れはカリキュラム・マップに示されています。1年次には基幹分野である「構造力学Ⅰ」、「構造力学Ⅱ」、専門共通分野の「建築概論」、「建築構法」、「設計基礎演習Ⅰ・Ⅱ」の建築学の入門的な内容を学ぶ科目が用意されています。2年次からは、建築設計・計画、建築環境工

学・設備、構造力学・建築一般構造、建築材料・生産の専門科目群が新たに加わります。これは、建築の学問的な区分に従って、大まかに科目をまとめたものです。これらの科目は建築学の基礎を与えるものであり、建築士の受験の際に必須の知識を与えるもので、大半を選択必修科目としています。

- (3) 3～4年次には、より専門性の高い科目が用意されています。諸君はこの段階で自分の学問的興味や将来の進路を十分考慮し、履修計画を立ててください。3年後期の「建築演習Ⅰ」では、意匠計画・環境コース（計画・環境系）と構造計画コース（構造・生産系）の2コースを設けていますが、諸君はいずれかのコースを選ばなければなりません。このときに選んだコースが、そのまま「建築演習Ⅱ」でのコースになり、卒業研究は当該系の科目担当の教員の下で指導を受けることとなります。

なお、3年次配当の必修科目を履修するためには、1・2年次に開講される必修科目を全て修得し、かつ、共通分野の選択必修科目要件を満足することが必要です。

- (5) 4年次になると、諸君は卒業研究に取り組むこととなります。卒業研究は、各専門分野の指導教員の指導を受けながら各自がテーマを決め、プロジェクト制作や調査、実験などによって、その分野の基礎的あるいは応用的能力の充実に努めようとするものです。これまで諸君が学習してきた知識や技術の集大成を行います。また、大学院進学、あるいは、生涯にわたって建築学を深く学ぶためのキャリア形成支援講座として、「建築学アドバンスⅠ・Ⅱ」が用意されています。

卒業研究に着手するには、

- ・110単位以上を修得していること
- ・3年次までに配当の必修科目15単位を修得していること
- ・次の選択必修科目の要件をすべて充足していること
 - 1) 「専門共通分野」で6単位以上を修得していること（ただし、「設計基礎演習Ⅰ」または「設計基礎演習Ⅱ」のいずれかを含む）
 - 2) 「建築設計・計画分野」で10単位以上を修得していること
 - 3) 「建築環境工学・設備分野」の「建築環境工学Ⅰ演習」、「建築環境工学Ⅱ演習」、「建築環境工学Ⅲ演習」の3科目のうち4単位以上を修得していること
 - 4) 「構造力学・建築一般構造分野」で7単位以上を修得していること
 - 5) 「建築材料・生産分野」で4単位以上を修得していること（ただし、「建築材料Ⅰ」または「建築材料Ⅱ」のいずれかを含む、および、「建築施工」、「建築経済Ⅰ」、「建築経済Ⅱ」の3科目のうち2単位以上を含む）
 - 6) 3年次後期に配当される以下の選択必修科目のうち6単位以上を修得していること

「建築計画Ⅳ」「建築計画Ⅴ」「建築史Ⅲ」「建築史Ⅳ」「地区設計論」「地区計画論」「建築設備ⅡA」「建築設備ⅡB」「鉄筋コンクリート構造Ⅱ」「鉄筋コンクリート構造Ⅲ」「建築基礎構造Ⅰ」「建築基礎構造Ⅱ」「構造計画Ⅰ」「建築経済Ⅰ」「建築経済Ⅱ」

のすべての条件を満足しなければなりません。ただし、これらは最低限の条件で、総単位数として120単位程度の修得が望まれます。

4年次配当の科目は、より高度な内容を少人数で学べる内容となっています。従ってこれらの科目も意欲的に学んでください。